

顕彰状

河野洋平氏は、1937年1月15日神奈川県平塚市に生まれた。早稲田大学高等学院に学び、第一政治経済学部に進学すると競走部に所属し、主にマネージャーとして組織を牽引した。1958年度には主務を務め、日本学生陸上競技対校選手権大会の男子総合優勝へと導く組織の中心人物となった。

大学卒業後は、丸紅飯田に勤務した後、穀物商社の社長を務めていたが、1967年に父である河野一郎氏の急逝により衆議院選挙に出馬し初当選した。以後14期連続で当選し、その間、新自由クラブ代表、科学技術庁長官、内閣官房長官、第16代自民党総裁、副総理、外務大臣として日本の政治の中樞を担った。さらに、2003年から2009年まで第71・72代衆議院議長を務め、2029日にもわたる在任日数は憲政史上最長を記録している。

氏は、日本のスポーツ界にも多大な寄与をした。とりわけ陸上競技においては、1983年より現在に至るまで日本陸上競技連盟の理事、副会長、会長、名誉会長などの要職を歴任し、財団法人から公益財団法人に移行させて組織の充実を図った。氏が携わったオリンピック競技大会では、2000年シドニー大会の女子マラソンで優勝、2004年アテネ大会の女子マラソンおよび男子ハンマー投で優勝するなど、見事な成果を残している。また、大会誘致にも手腕を発揮し、2006年には世界クロスカントリー選手権大会をアジアで初めて福岡市に誘致し、2007年には大阪市にて世界陸上競技選手権大会を、2011年には神戸市にてアジア陸上競技選手権大会を開催するに至り、世界規模の大会を数多く成功裡に収めたことは特筆に値する。

1988年から1995年までの日本学生陸上競技連合会長在任時には、国際大会で活躍できる選手を輩出するシステムを構築するとともに、学生スポーツの普及活動にも力を注いだ。1995年に福岡で開催されたユニバーシアード大会では、誘致のみならず大会運営を地域との連携により成功させたとして高い評価を得ている。

これらの功績が評価され、2015年6月には国際陸上競技連盟(IAAF)よりシルバー勲章(シルバー・オーダー・オブ・メリット)を受章した。これは世界の陸上競技界に多大な貢献をした個人に与えられる最高の勲章である。

一方本学においては、特命教授および評議員として早稲田スポーツに様々な支援を続け、稲門体育会会長としても長きにわたり現役や校友を牽引している。さらに、競走部を支援する組織である早稲田アスレチック倶楽部会長を13年間務め、学生に対して学生スポーツが持つ意義と役割を丁寧に指導してきた。部員が生活する合宿所の建設にも尽力し、その成果は、2010年の学生三大駅伝(出雲・全日本・箱根)優勝をはじめ、2011年の関東学生陸上競技対校選手権大会では70年ぶりの男子総合優勝、日本学生陸上競技対校選手権大会では53年ぶりの男子総合優勝へと表れ、本学のみならず学生陸上競技界に残してきた足跡は大なるものがある。

ここに早稲田大学は、日本のスポーツ界と早稲田大学への永年にわたる多大な貢献と献身に対して、河野洋平氏を早稲田大学スポーツ功労者として表彰し、永くその栄誉を讃えるものである。

2016年9月17日

早稲田大学